

## 試験研究（中間）評価整理表

試験研究機関名 内水面水産試験場  
所管課 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	豊かで魅力ある水産業の振興	水産資源の持続的利用技術の開発	アユ増殖技術の開発	一部漁協で釣果実績があり、内水面漁連が種苗生産を望んでいるダム湖系種苗等を対象に、中間育成、釣果等から種苗特性を評価する。また、早期放流の可能な単価の安い小型種苗の放流効果を把握する。	・ダム湖系種苗について釣獲評価を行う。 ・飼育環境の違いによる釣獲評価を行う。 ・小型種苗の放流効果を把握する。	18	22	C	漁協等業界からのニーズがより高い「本県産アユの主要な系統の種苗特性評価」にシフトすることにより、漁協の増殖事業への展開が期待されるため。	天然アユの遡上調査により資源量把握が可能となった。今後の発展的課題として、流域間の資源分布と魚道改善方策、河川流域の水質と資源分布、上流の産卵場所の確保など、資源管理技術と改善方策に関する基礎的研究への発展課題が展望できる。
2	豊かで魅力ある水産業の振興	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	モツゴ養殖技術の確立	モツゴの成熟調整技術および集中産卵技術を開発し、コイ養殖池で混養することにより、生産性の向上と経営の安定を図る。	親魚の催熟調整による水仔の大量生産技術開発手法の比較試験及びコイ養殖池での実証試験	18	22	B	県内養鯉業は依然として厳しい経営状況にあり、経営の多角化を求める業者の状況を踏まえると、来年度も継続実施されるべきである。なお、養殖現場への成果普及のためには、より簡便な方法を提案する必要がある。	
3	豊かで魅力ある水産業の振興	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	イトウ親魚育成技術の開発	イトウは採卵時のふ化率が低く、安定した種苗生産が困難であるため、親魚の養成方法を改良することでふ化率の向上を図る。	・時期ごとに飼育水温を変えて親魚育成を行う。 ・3～5月に採精し、精子の運動性を調査する。 ・雌の成熟時期に合わせて採精し、ふ化率(受精率・発眼率・浮上率)を調査する。	18	22	B	親魚の養成手法の改良により、採卵は可能となったが、さらにふ化率の向上について、継続した検討が必要である。	